

青少年育成とボーイスカウト

第23回 「世界青年の船」事業

東北大学大学院工学研究科 × 川守田 智

事業で得たことは何ですか？

世界青年の船では、盛岡の伝統芸能「さんさ踊り」を船のクラブ活動として踊った。浴衣と太鼓を商工会議所からお借りして、最後には参加青年皆で輪踊りができた。全国的な知名度は高くないさんさ踊りだが、外国青年からは高評価で、盛岡のパレードで踊ってみたいという声も多く頂いた。南部鉄器はじめ特産品の評価も高く、地元が持つポテンシャルが実は世界で通用するということがわかった。

また、Youth Developmentをテーマに各国の青年と自国が抱える問題について討論した。青少年をいかにエンパワーメントするかがどの国でも課題となっている。そこで得た結論は、学校、家庭から独立したノンフォーマル教育の

大切さである。私が活動しているボーイスカウトはその一つであるが、外国青年の取り組みは興味深く、自分の活動にも活かそうなものが多かった。またここでは自分のバックグラウンドや専門性をもとに、議論に貢献する重要性を知った。すなわち、一定の専門性が国際社会で貢献するために不可欠であるということだ。これが大学院進学や後述する留学へのきっかけとなった。そして、世界中に腹を割って話せる友人ができたこと、これが世界青年の船で得たことである。



事業の経験は、その後の人生にどのような影響を与えましたか？

下船後、ボーイスカウト指導者としての技能の向上を図るため、2013年6月からスイスアルプス中央に位置するカンドルシュテーク国際スカウトセンター(KISC)にスタッフとして勤務した。KISCは2013年に創立90周年を迎えた、歴史あるボーイスカウトのキャンプ場・宿泊施設である。ピーク時には1日2000人のスカウトが世界中から集まる。スタッフは世界30か国以上から集まった若手指導者のボランティアで組織され、キャンプサイト管理や、登山やクライミング、国際交流などのアクティビティの運営等を行った。世界中の子どもたちのために働いて、日本を紹介できたことは有意義であり、同僚たちや世界の指導者たちと知見を交換しながら、指導者としての幅が広がった。このほかにも岩手のスカウトのスコットランドへの海外派遣で引率指導者をつとめたり、文部科学省と共同で行った東ティモール、エジプト、ブルキナファソ、アルメニアのスカウトと岩手被災地高校生との交流事業にアドバイザーとして参加するなど精力的に活動が続いている。その後スイス連邦工科大学チューリッヒ校(ETH)へ、経団連グローバル人材育成奨学生として1年間交換留学をした。アインシュタインも卒業したETHは、2013年QS世界大学ランキング12位、科学技術分野5位に選ばれた欧州を代表する名門理系大学である。ここでは最先端の水文科学や水処理技術、水理理論に触れ、自分の専門性をさらに深めることができた。世界青年の船事業は、下船後の取り組みへのきっかけとなり、背中を押している。



これからやりたいことは何ですか？

ボーイスカウト活動を地道に続け、青少年育成に引き続き尽力していきたい。ボーイスカウトは216の国と地域に広がる世界的なノンフォーマル教育であり、国際キャンプなど子どもたちが世界と触れあう機会が多くある。しかしながら、そういったところへ引率できる英語が堪能な指導者は限られているため、私は特にこれまで磨いてきた英語や海外経験を生かし、国際的な活動をより活性化させたいと考えている。2015年には世界スカウトジャンボリーが日本で開催されるが、そこでも指導者として参加する予定である。

大学院修了後は、水資源・水環境について学んできた専門性を生かし、世界の水由来の諸問題について果敢に取り組んでいきたい。開発・環境系の国際機関への将来的な就職も視野に入れている。2014年11月からはJICAベトナム事務所において、「災害に強い地域づくりプロジェクト」においてインターンをする。水災害に直面するベトナム北部において、日本の災害制御の知識をいかし、解決策を練り、実施するプロジェクトである。一步一步、目標に近づけるよう、さらにさまざまなことにトライしていきたい。

《主な略歴》

2011年 岩手県盛岡市出身
内閣府第23回世界青年の船事業に参加

2013年 東北大学大学院工学研究科
土木工学専攻入学

カンドルシュテーク国際スカウトセンター(スイス)勤務

スイス連邦工科大学チューリッヒ校留学

行って悔いなし！
出会いと発見、刺激に満ちた日々は
人生航路をも変える。

第9回 「世界青年の船」 事業

内閣府

×

坪井 ひろ子

事業で得たことは何ですか？

共に世界の今・未来を担う同世代の青年達と出会い、あらゆる事柄について語り議論する貴重な機会です。「船」という、ある種、現実から切り離された環境において、それぞれの国や地域の文化、社会的背景、経験や個性を持つ世界各国の青年達がひとつの「共同体」を構築する過程を通じ、問題意識の共有にとどまらず、具体的な解決のための糸口や手法まで時間をかけて熟考・討

論出来るのは、「船」という異質な環境とプログラム構成でこそ可能足らしめるものでした。小さな「船」社会は現実社会を反映する小さな鏡のような場であり、己を知り、誰もが何か貢献する力を持っていることを認め、語る、聞く、話し合うことは、つまりは現実社会・世界において何をすべきなのか、考えることに繋がりました。

事業の経験は、その後の人生にどのような影響を与えましたか？

街で偶然見かけた1枚のポスターが本事業を知ったきっかけです。帰国して間もない20代、外国のみならず日本全国から集う青年達と共同生活を送りつつ諸国を訪問するという、他に例を見ないユニークな形式と内容に惹かれて応募しました。日常の些細なことから政府主催事業だからこそ体験可能なことまで様々な船内・寄港地活動等を共にこなす日々は、色々な形の「発見」に満ちており、その衝撃を消化するプロセスの中で、自身の興味や方向性がより明確になりました。専門分野であった芸術・文化を考える際、人の営みというより大きな視座が加わり、その後の学問と活動の幅が広がったことにより、考えもしなかったような展開につながりました。別れの際、コスタリカのリーダーが書いてくれた「Carpe Diem」—それまでは単なるフレーズだったその言葉が、特別な意味を持つものとなりました。



た。豊かな時間の効果は持続性に富み、色々な人生の節目や決断の時、「船」での出来事、感じたことや考えたことがふと脳裏に蘇ります。「船」での航海は、確実に自身の中に刻まれています。

これからやりたいことは何ですか？

「子供は大切なこと、すべきことを大人に気付かせるために、繰り返しこの世に生まれてくるのです。」というマリア・モンテッソーリの言葉。子育てを通じて日々実感しています。職場や社会で学ぶことは数多くありますが、家庭を持ち母親になって初めて解ることも沢山あります。小学生の娘と家族との暮らしを

通じて、今の世界、その将来を改めて考えます。如何にして一人ひとりが幸せに生きることが出来るか、そのために、自身がすべきことは何かを考え実践すべく「舵取り」を続けたいと思えます。



《主な略歴》

兵庫県神戸市出身

- 1997年 総務庁（現内閣府）第9回「世界青年の船」事業参加青年
- 1998年 総務庁（現内閣府）第10回「世界青年の船」事業管理部員（通訳）
- 1999年 総務庁（現内閣府）第11回「世界青年の船」事業 管理部員（通訳）
- 2001年 一橋大学大学院社会学研究科博士課程前期修了
国立西洋美術館を経て日興ソロモン・スミス・バーニー証券会社（現シティグループ証券株式会社）にて勤務
フリーランス通訳・翻訳者を経て内閣府共生社会政策担当青年国際交流担当にて勤務中

第17回 「世界青年の船」 事業

ホールアース自然学校執行役員×田中啓介



事業で得たことは何ですか？

50人を超える大所帯となった、よさこいソーランのクラブ活動。船長をお招きしてのにつぼん丸のエネルギーやゴミ問題に関するシンポジウム。船内のゴミの行方をたどるバックヤードツアー。船内生活でのエネルギー浪費を訴える啓発ビデオの制作。デッキに整列してのHAKA。ウォーターボーイズ。すべてのシーンに、いつも多国籍な仲間の存在があった。彼らとのコミュニケーションを通して生まれたのは、「自分は世界のどこの人ともきっと一緒にやっつけていける」という確信。

それは決して、自分自身に対する奢りではなくどんな文化の人であろうが、結局は同じ人間であり仲間であり家族なのだという、共同意識のようなものがもたらしたのだろう。船という限られた空間と、24時間いつも共にいる仲間。40日を超える時間が自分自身に与えてくれたものは、自信であり確信であり、人生という航海への大きなエネルギーだったと強く思う。

事業の経験は、その後の人生にどのような影響を与えましたか？

につぼん丸の中に届いた1枚のFAX。沖縄への転勤を打診する内容に、ほろ酔い気分が一瞬にしてぶっ飛んだ。そこから始めた、PYたちへの相談。嬉しかったのは、どのPYに聞いても「じょりいなら大丈夫だよ」と、太鼓判と背中を押してくれたこと。誰1人として、マイナスな要素を口にするPYがいなかったことが、「沖縄に行こう！」と決心させてくれた。沖縄に赴任してからは、環境や観光に繋がる業務の幅を広げながら、IYEOの会長も務めさせて頂き、沖縄のネットワークを楽しむ日々。万国津梁を掲げていた琉球王国とSWYの共通点を実感しながら、多様な価値観がもたらす場のチカラを味わうことができた。この多様性の場こそが、その後のJICA研修をはじめとする国際的な業務に繋がっている。ちなみに、妻とも沖縄時代に出逢いました(笑)



沖縄と太平洋の国々の子どもたちによる国際会議



エコツーリズムや環境教育のJICA研修コーディネーター

《主な略歴》

- 2001年 旅行会社時代を経て、ホールアース自然学校へ転職。
- 2005年 静岡県より、第17回世界青年の船事業に参加
- 2005年 沖縄赴任。エコツーリズムや環境教育の分野で行政・企業との協働を推進。
- 2007年 沖縄県IYEO会長に就任。
- 2009年 富士山本校、事務局長。
- 2010年 静岡県IYEO会長に就任。
- 2011年 東京事務所所長
- 2013年 富士山本校、研修・法人事業部執行役員。

これからやりたいことは何ですか？

テーマが大きく2つ。自然体験による環境教育という「非日常」を、いかに「日常」に繋げ、意識変容から行動変容を生み出せるか。その意味では、教育という現場にもっともっと浸かりたい。「グローバル教育」が旬なキーワードになりつつあるが、単に国際的な視野を持つ人材という意味でのグローバルではなく、地球そのものの多様性を楽しみながら育んでいく、ホールアース”な人材でありたいし、育てたいと思う。

もう1つが、日本の発信。旅行会社時代のおかげもあってこれまでに60ヶ国以上を訪れ、かつSWYの仲間たちが世界にいる今、日本の外国人観光客の受け入れ体制があまりに貧弱であることに大きな懸念を抱いている。自分自身も、通訳案内士を目指しながら(希望)、サステナブルツーリズムの分野での活動を通し、日本の観光にもっと喝を入れていきたい。

違いを「楽しむ」ことを教えてくれた 世界青年の船

第22回 「世界青年の船」 事業

Volvo Group Trucks

×

筒井 麻衣子

事業で得たことは何ですか？

「世界青年の船」事業を通して、多様な考え方ができるようになりました。また13ヶ国から集まった参加者と共に過ごした1か月半は、自分の価値観を根本から考えさせられるきっかけとなりました。

日々、様々なトピックでディスカッションをする機会がたくさんありました。頭を抱える程難しい国際問題を議論したかと思えば、夕暮れ時に、船のデッキで各国の恋愛事情を話したこともありました。その際、海の上という不思議な環境だったからこそ、一人の人間として、また時には日本代表として、様々な視点から物事を考えることができたと思います。

どんなトピックでも、文化や宗教に影響を受けて形成された考え方はとても興味深かったです。

そして、自分とは違う考え方に出会った時、そこで線を引いてしまうのではなく、どうしてそう考えるのか、その背景をじっくり考えるようにしました。そのプロセスの中で、違いを受け入れることの大切さを学びました。さらに、多様性を楽しむ姿勢と、その醍醐味を教えてくれたこの事業は、私にとってかけがえのない経験になりました。



事業の経験は、その後の人生にどのような影響を与えましたか？

本事業を通じ、ケニアのスラム街で小学校を運営しているケニア人の参加青年との出会いがありました。以前から、国際関係やアフリカの教育開発に興味を持っていた私にとって、これは運命的とも言えるものでした。

事業終了後、日本人参加青年数名で、彼が運営する小学校を支援する団体、Tupendaneを2010年3月に立ち上げました。

現在まで、日本でのチャリティーイベントや勉強会の開催、また、現地で事業を展開する手助けをしてきました。

以前からガールスカウトなど、様々なボランティア活動に関わって来ましたが、一から団体を立ち上げ、運営することは初めてだったため、本当に多くのことを学びました。



今まで続けて来れたのも、たくさんの方に支えて頂いたお陰です。

まずは、現地での自立した学校運営を目標に、活動を続けて行きたいと思っています。

《主な略歴》

- 2009年 千葉県市川市出身
内閣府の第22回「世界青年の船」事業に参加
- 2011年 獨協大学 法学部 国際関係法学科 卒業
- 2012年 内閣府の第24回「世界青年の船」事業に事後活動セッションスタッフとして区間参加
- 2014年 英国ブリストル大学大学院 卒業 開発学修士
- 2014年 Volvo Group Trucks, APAC, Aftermarket & Soft Products

これからやりたいことは何ですか？

第一に、プロフェッショナルとして今後10年20年後どうありたいのか、より真剣に考え、自分の専門性を高めていきたいです。

第二に、「世界青年の船」を始め、自分が学生時代に経験したこと、学んだことを、引き続き、多くの人に伝えたいと思います。

第三に、上記でも紹介した、Tupendaneの活動を今後も継続することです。

もし、この事業が気になっている方がこれを読んでいるとしたら、悩む前にとにかく

応募することをお勧めします。

海外旅行や語学留学などとは比べものにならない素晴らしい経験が待っているはずです。こんなに自分や他人の価値観に触れて、真剣に悩んで、泣いて、笑った期間はありません。この事業に参加することはスタートに過ぎず、参加した後の人生は今よりも豊かなものになると自信を持って言えます。